

# 学校推薦型選抜（公募）Ⅰ期 国語「基礎学力調査」（二日目）

【一】 次の文章を読んで、後の問（問一～六）に答えなさい。

ある日のこと、餓死寸前だった囚人のひとりが倉庫からじゃがいもを盗んだ。收容所当局は犯人を引き渡すよう命じ、さもなければ全員に一日の絶食を課すといってきた。囚人たちはだれが犯人かは知っていたが、仲間を絞首刑にするよりはと、一日の絶食を選んだ。

その日の夕方、みんながフキゲンでイライラしていた。さらに悪いことに停電となり、バラックは真つ暗闇になってしまったのである。囚人たちの怒りは爆発（A）になった。

そのとき、バラックの代表者が口を開き、最近自殺した仲間について話し、そうしたジコホウキを防ぐにはどうすればいいか、フランクルの意見を聞きたいといって指名したのだった。

フランクルは寒さに震え、飢え、ぐったりし、イライラしてそんな気分ではなかったが、今こそ精神的な援助が必要とされてきているのだと思って跳ね起き、自分の考えを力説した。

彼はまず、今の状態は、それほど最悪というわけではないと慰めを語った。真にかけがえのない大切なものは、それほど失われていないのではないかと。健康、家庭の幸福、職業、財産、社会的地位といったものは、取り戻そうと思えば、決してできないわけではない。

一方、この收容所から生還できる可能性は、全体の五パーセントくらいであろうという、現実に立脚した意見も語った。

だからといって、落胆し希望を捨てる必要は決してないことも。なぜなら、未来はどうなるか、次の瞬間にはどうなるか、だれにもわからないからである。

しかも、未来はともかくとして、われわれが過去において果たした豊かな体験は、何ものも、何人も、奪い取ることはできない。過去の中で、業績は永遠に確保される。過去は消え去ったのではなく、別次元の中に保存された形で存在しているのだ。

人生は、いかなる状況でも、それ自体で意味をもっている。だが、その（B）の中には苦悩も死も含まれるのだ。すなわち、苦悩すること、死ぬことは、決して無意味どころか、人生を意味あるものにするのである。苦悩も死も、それ自体が意味なのである……。

フランクは、闇の中で熱く語り続けた。

われわれの生への戦いは、なるほど絶望的かもしれない。だからといって、その戦いの意味やソングンを少しも傷つけるものではない。困難な状況にあるわれわれ、また、近づきつつある最期のときを迎えるわれわれを、だれかが見ている。友が、妻が、生きている者が、あるいは死んだ者が、そして神が見ているのだ。その者は、われわれに期待している。われわれの生きざまを見て失望しないことを。われわれが哀れに苦しまないで、誇らしげに苦しみ、そして死んでいくことを期待しているのだ。

もしもわれわれがそうするなら、哀れに苦しんで死んだ場合に彼が受けるであろう失意と苦しみから、われわれは彼を救っていることにならないだろうか？

それゆえ、犠牲には意味があるのだ。深いシンコウ(x)のもち主ならよく知っている。ある仲間、愛する者たちの苦痛を取り除いて欲しいと天に祈った。そのかわり、彼らのぶんまで苦痛を引き受けると約束した。以来、彼にとって苦悩は、意味をもつものになったのである。

われわれも、愛する者たちを苦痛から救うために、自らを犠牲にしようではないか。すなわち、いかなる状況であっても、

誇らしげに苦しみ、誇らしげに死んでいこうではないか……。

まもなく、バラックに明かりが灯<sup>とも</sup>った。

目に涙を浮かべ、（C）をいうために近寄ってくる仲間たちの姿を、フランクは見た。

（斎藤啓一『フランクに学ぶ 生きる意味を発見する30章』より、文中省略・変更あり）

〔問一〕 傍線部(ア)～(エ)に当てはまる漢字を含む熟語を、次の各群①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- |     |       |       |       |        |       |       |
|-----|-------|-------|-------|--------|-------|-------|
| (ア) | フキゲン  | ① 機械式 | ② 記述式 | ③ 气象台  | ④ 危険視 | ⑤ 期待大 |
| (イ) | ジコホウキ | ① 既視感 | ② 棄却域 | ③ 奇術師  | ④ 希少性 | ⑤ 飢餓感 |
| (ウ) | ソング ン | ① 現代性 | ② 減退期 | ③ 情報源  | ④ 限界点 | ⑤ 戒厳令 |
| (エ) | シンコウ  | ① 興行主 | ② 好待遇 | ③ 多幸福感 | ④ 講演会 | ⑤ 仰天話 |

〔問二〕 (A)～(C)に当てはまる最も適切な言葉を、次の各群①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- |     |      |      |      |      |      |
|-----|------|------|------|------|------|
| (A) | ① 同然 | ② 事故 | ③ 寸前 | ④ 装置 | ⑤ 状態 |
| (B) | ① 人生 | ② 状況 | ③ 意味 | ④ 未来 | ⑤ 過去 |
| (C) | ① 意見 | ② 感謝 | ③ 抗議 | ④ 疑問 | ⑤ 感想 |

〔問三〕 傍線部(あ)・(い)を別の言葉に置き換えた場合に最も適切なものを、次の各群①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- |     |          |         |          |         |         |
|-----|----------|---------|----------|---------|---------|
| (あ) | ① 主張すること | ② 反抗する力 | ③ 落ち着くこと | ④ 絶対的自信 | ⑤ 生きる支え |
| (い) | ① 相反した   | ② 無関係な  | ③ 依拠した   | ④ ほど遠い  | ⑤ 誇張した  |

〔問四〕 傍線部(X)「彼が受けるであろう失意と苦しみ」の解釈として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 一般の人が日々のなかでつい犯してしまう罪の意識に思いをはせること。
- ② フランクル自身がイライラして話をする気分ではなかったなかで力説したこと。
- ③ 暗闇の中でフランクルの話を聞いていた囚人たち全てが反省していること。
- ④ 囚人の生への戦いをみている友・妻・神などが囚人の生きざまに失望すること。
- ⑤ 収容所の倉庫からじゃがいもを盗んだ囚人が悔いの念をもち許しを乞うこと。

〔問五〕 傍線部(Y)「バラックに明かりが灯った」が意味する別の表現として適切ではないものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① フランクルが話をしたことでそれまでのバラックの中の雰囲気が変わった。
- ② フランクルの話をさえぎろうとした収容所当局は明かりが再点灯することを急いだ。
- ③ フランクルの話により囚人たちの重苦しい気持ちに光明が差すようであった。
- ④ フランクルの姿は暗闇で見えなかったが明かりのもとでは輝いて見えた。
- ⑤ フランクルの姿をはっきり見ることで囚人たちは新たな気持ちになれた。

〔問六〕

筆者の見解として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① フランクルは苦しみや悲しみの経験を最重要視しており人生はその連続であると感じた。
- ② フランクルは人間がたとえ逆境の中でも人生をいかに意味づけるかが重要であると説いた。
- ③ フランクルは楽観的な性格より悲観的な性格の方が人生の充実度が高いと主張した。
- ④ フランクルは極限の状態を体験した人間だけに見られる幸福と快感の要素を発見した。
- ⑤ フランクルは自身による過酷な体験から忍耐と寛容を身につけその必要性をひろめた。

【二】 次の文章を読んで、後の問（問一～五）に答えなさい。

「お名前は？」と中国人に尋ねれば、いまでは、ほぼためらうことなく「我姓陳、名子叫秋菊（苗字は陳、名前は秋菊です）」といったように、本名を名乗るだろう。だが、昔は決してそうではなかった。

デンキ小説(7)にこんな話がある。「昔、一人の書生が古寺に住んでいた。勉強していると自分の名をよぶ者がいる。返事をして振り向くと、なんとそこにいたのは人首蛇身の美女蛇であった。蛇は名前をよんで答えた人を喰くってしまうのだが、（A）和尚に見破られたので書生は助かった」。

また、『紅樓夢』のなかで、家庭教師が女の子を教えている場面がある。彼女はある文字のところにくると、決まって発音を変えて読んだり、違う字を書いたりした。あとでその字が、亡くなった母の名前だったことがわかるのだが、家庭教師は彼女の母親の名前を知らなかったのだ。というのも、昔、中国の女性の名前は家族しか知らず、他人には教えなかったうえ、生前の名前を死後は「諱号（いみな）」といって、使うのをはばかったためである。へⅠへ

そのほかにも、名前をよぶと落馬するという迷信や、人に呪いをかけたいときには紙を人の形に切って相手の名前を書き、ナイフや針で突き刺すということもあった。

中国ではかつて、自分の名前が他人に知られると禍わざいが降りかかるとか、他人の実名を直接よぶのは（B）だという考えがあったのだ。へⅡへ

名前は呼称だから一つあれば十分なはずだが、中国人は、本名以外にいくつもの名前をもっていた。それは、「実名敬避」（相手の本名を口にするのは失礼なので避ける）のシェウヅク(8)による。これは古代中国以外にも世界のあちこちでみられたというが、相手が高貴であればあるほど直接身体に触れてはいけない、という考え方の延長線上にある精神的なタブーである。とはいえ実際には、本名を知らない、ということはある程度であったであろう。「実名敬避」の観念そのものは早くに薄れ、結果的に複数の名前をもつという習慣にその名残りをみせる程度となったと思われる。へⅢへ

また幼いときには「小名」、成年に達すると「字」、死んでからは「諡号」(死後に贈られた名) というように、名前はその人のライフステージを示すものであるし、( C ) は社会的地位の高さをあらわすシヒョウでもあった。( IV )  
たとえば孔子を例にとると、その姓は孔、名は丘、字は仲尼、外号(あだ名) は孔老二、尊称が孔子であり、さらに諡号は、春秋時代から清代につけられたものまで合わせると、一〇以上もある。中国人の名前を知るということは、つまり、中国のユウキウの歴史、思想・観念、地域性、風俗を知ることでもあるのだ。( V )

(21世紀研究会『人名の世界地図』より、文中省略・変更あり)

〔問一〕 傍線部(ア)～(エ)に当てはまる漢字を、次の各群①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

(ア)	デンキ	①	起	②	軌	③	既	④	危	⑤	奇
(イ)	シユウゾク	①	集	②	修	③	習	④	愁	⑤	衆
(ウ)	シヒヨウ	①	標	②	表	③	票	④	評	⑤	漂
(エ)	ユウキユウ	①	優	②	悠	③	雄	④	幽	⑤	勇

〔問二〕 (A)～(C)に当てはまる最も適切な言葉を、次の各群①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

(A)	①	あろうことが	②	幸い	③	いつもと同じで	④	不運にも	⑤	想定どおり
(B)	①	非礼	②	日常行為	③	当然	④	友好の証	⑤	初対面のあいさつ
(C)	①	本名	②	無名	③	その時点の名前	④	小名があること	⑤	名前の多さ

〔問三〕 本文中からは「女性よりは男性のほうが、農民よりは知識の方がより多くの種類の「名前」をもっていたのである。」

という一文が抜き取られている。それが入るべき箇所として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① へⅠ Ⅱ ② へⅡ Ⅲ ③ へⅢ Ⅳ ④ へⅣ Ⅴ ⑤ へⅤ Ⅵ

〔問四〕

本文の内容と最も合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 中国人は今でも家族以外の誰かに自分を名乗るとき本名を言わないよう注意している。
- ② 昔の中国では人々はたくさんの名前を持っていたので、誰でも一〇以上の名前があった。
- ③ 今の中国では人々はたくさんの名前を持っていて、誰でも一〇以上の名前を持っている。
- ④ 中国では自分の名前を他人に知られると不幸になると信じられていた過去がある。
- ⑤ 現代の中国人は高貴な相手であればあえて本名を呼ばない方がよいと考えている。

〔問五〕

本文にある「実名敬避」の説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 中国で長らく続く文化であり名前は財産であるという習慣が制度化されたもの。
- ② 観念としては早々に薄れ名前を可能な限り多く持たないという感覚を生んだもの。
- ③ もともと高貴な人の身体に直接触れないという考え方を踏襲したもの。
- ④ 本当の名前を大切にしたいという庶民の気持ちの表れを行動に示したもの。
- ⑤ あとあと観念だけが残ることになり複数の名前を持つに至るようになったもの。

# 【解答例】

入試年度 : 2023  
入試種別 : 学校推薦型選抜(公募)  
I期 1日目  
科目 : 基礎学力調査

## 〈国語〉

問No.	解答番号
1	1
2	2
3	5
4	5
5	3
6	3
7	2
8	5
9	3
10	4
11	2
12	2
13	5
14	3
15	1
16	2
17	2
18	1
19	5
20	4
21	4
22	3